



CULTURE, 文化がある。



NATURE, 自然がある。

URBAN, 都市の便利さがある。



guidebook of migration to
HAKODATE

いまの私にちょうどいい街

HAKODATE

北海道函館市 移住ガイドブック

函館市企画部移住・人口減担当
北海道函館市東雲町4番13号
TEL. 0138-21-3688



どんな暮らしも、よりどりみどり。

函館のことを人に紹介するとしたら、どんな伝え方になるだろう。大都会というほどではないけれど、田舎というほど田舎でもない。都市的な便利さもありながら、海も山も近く、自然の豊かさと四季の移ろいが感じられる。飛行機も新幹線もフェリーもあるから、どこからでも来やすいし、どこかへ行くにも便利だ。開港の歴史を感じさせる街並みの旧市街、観光客と地元の人が行き交う賑やかな繁華街、静かで落ち着いた雰囲気の住宅街もあって、エリアごとに趣が異なるのも特徴だろう。食べ物だってそうだ。新鮮な海の幸はもちろんのこと、全国にファンがいるローカルチェーン店や地域で長く愛されている老舗、独自のメニューやキャラクターが光る個人店も多く、バリエーションがとても豊かだ。そうそう、温泉のことも忘れてはいけない。市内の至るところに温泉があり、特別な存在ではなく、日常の選択肢のなかに並んでいる。音楽やアートイベントも盛んだし、子連れで楽しめる遊び場だって少なくない。夜景で有名な函館山は近所の人たちのハイキングコースでもあるし、国の特別史跡である五稜郭で学生たちがおしゃべりしているのも、いつもの光景だ。都市と自然、観光と生活、特別と日常が混ざり合って同居している。函館はそういう街だ。だからこそ、いろいろな理想を追い求めることができる。あなたは函館で、どんな暮らしを選びますか？

函館市長であり、移住者でもある大泉潤。それぞれの立場から函館という街はどのように見えているのでしょうか。街との出会いから、今後の展望まで話を聞きました。

大泉潤

JUN OIZUMI

人情味ある人たちに魅せられて ずっと忘れられなかった函館の街

私は札幌市に隣接する江別市の出身なのですが、父親が函館の隣にある七飯町の養護学校に教員として赴任していたことがあったんです。だから、小さい頃から函館には何度も来ていました。とても華やかな印象があった、子どもながらにすごい街だなと思っていたのを覚えています。一度行ったら忘れられない街ですよ。

「飯も美味しかったですし、景色もきれいだっただのですが、とくに鮮明に覚えているのは、そこで出会った方たちのことです。最初は少しかとつきにくい方や、ぶっきらぼうに話す方もいるのですが、一歩近づくと人情味があつて人間味が豊かな方ばかりで、とにかく人が魅力的で、それが函館という街に強く惹かれる

もつと選ばれる街になるために 豊かさを追求して進化する函館

函館の強みは、大きく3つあると思います。1つ目は交通アクセスです。飛行機、新幹線、フェリーと陸海空の交通機関があり、どこからでも訪れやすく、どこへでも行きやすい。2つ目は人の魅力。先ほど話したような人柄のよさもあり、高校、専門学校、大学等と選択肢が多く、人を育てる力もある街です。3つ目は都市ブランドですね。これは得たとしても簡単に得られるものではありません。全国的に知られていて、魅力的な街に選ばれ続けていることも、大きな強みです。

今後はインクルージョンの考えを大切に、誰もが人格を尊重され、誰も排除されることがない社会を1日でも早く実現したいと思っています。同時に人口減少という課題への対策をしっかりと実行し、街のにぎわいを作り、市民の幸福度を上げていくことが重要です。単に経済的な豊かさを求めるのではなく、社会環境も含めた本当の豊かさを実現し、若い方々にも選ばれる街を目指していきます。

先輩移住者としての

函館の市長としての



おおいずみ じゅん
大泉潤
1966年、北海道江別市生まれ。早稲田大学法学部卒業。函館市観光部長や保健福祉部長を経て、2023年4月に第10代函館市長に就任。

Uターンの夫と移住の妻 ふたりと街を繋いだ飲食店の開業



もりた りょうすけ な お
盛田 涼介さん(34歳)、奈央さん(35歳)
仕事: 飲食店経営
出身地: 北海道函館市/千葉県木更津市
函館在住歴: 1年

地元を離れて上京した ふたりの出会い

涼介 僕は函館出身で、看護学校を卒業する21歳までは地元にいきました。就職は東京の病院で、住んでいた寮が新宿だったんですよ。人は多いし、目の前にドンと都庁が建っているような環境で、「函館から出てきた人間からすると驚くことも多かったですね。妻とは、その勤務先で出会いました。」

奈央 私は千葉県木更津市の出身で、実家が山のほうだったので畑で野菜を育てたり、味噌や梅干しを手作りするような環境で育ちました。だから、都会に対する憧れも強くて、東京の病院に就職したんです。東京はちょっと出歩くだけで素敵なお店があったので、暮らしていて楽しかったですね。

函館に移住して お店を始めるといふ決断

涼介 カレーは函館に住んでいる頃から好きで、家の近くにあったスープカレー屋さんによく通ってました。東京に行ってしまうと、いろんなお店を食べ歩いていて。そのなかで特に衝撃的だったのが、カレーバーというスタイルのカレーを含めたスパイス料理とお酒が楽しめるお店だったんです。2回ほど食べに行って、「ここで働きたい」と思いました。当時、東京ではスパイスカレーが流行っていて、ひとつのプレートに何種類かの

カレーとトッピングがたくさんついているようなお店が多かったんですけど、そのお店が完結しているカレーだったんですよ。一皿入魂というか、いろんなカレーを食べてきたんですけど、他にはない美味しさでした。

奈央 「あのカレーはどうやって作ってるんだろう」と言っていて、家でも作ったりしてたもんね。実際に働かせてもらうようになって、「いつかは自分もあんなお店をやりたい」という話はずっとしてました。ただ、私のなかではもっと年をとってからの話かなと思って(笑)。そんなに本気だとは思っていませんでした。付き合うようになって感じて函館に移住してきました。

涼介 それまで料理をやっていたわけじゃないんですけど、そのお店ではドレッシングやマヨネーズ、ベーコンも自分たちで作っていて、自分でやれば何でもイチから作れるってことに感動したんです。そんな環境で6年ほど働いていて、そこで学んだことを函館で

アウトプットしたいという気持ちで「ハッチャギ」をオープンしました。こっちは、お肉も野菜も魚も、食材は基本的に北海道や道南のものにこだわっています。定番メニューはもちろんあるんですけど、野菜を毎週ランダムに届けてもらったり、鮮魚店に魚を見に



カレーはレギュラーメニューの他に日替わりもある。ディナータイムは個性豊かなスパイス料理とお酒を楽しむつつ、締めにかレーを味わうのがオススメ。

移住、開業、出産 多忙な1年を振り返って

涼介 東京はいろんな飲食店があるし、交通の便がいいからどこにでも行きやすいし、今でも好きです。だけど、とにかく忙しいですよね。通勤も大変だし。その点、函館にはのんびりした空気があって、それはここでしか味わえないものだと思います。素晴らしいワイナリーがあったり、面白い生産者の方と出会えたり、美味しい飲食店も増えていて、帰ってきてよかったなと思っています。

奈央 この1年は移住して、お店を始めて、子どもも生まれて、とにかく忙しい日々でした。飲食店を始めたお陰でいろんな人と出会えたんですけど、まだ一緒にご飯を食べに行ったりはできていないので、そういうことをするのが楽しみですね。気になるけど入ったことのないお店も多いから、これから自分で発掘していく楽しみもありますね。あとは街のこともまだまだ知らないことが多いので、ゆっくり観光もしたいなと思っています。

涼介 僕も、もっと函館を知りたいですね。五稜郭とか西部地区のエリアも面白そうですね。遊んでいるんですけど、営業があるとあまり遊びに行けないので。お店としては、最初は同業者や生産者の方々に来ていただいたいて、

移り住んでわかった！ 函館の「想定外」

東京に住んでいた頃は、函館の狭さに苦手意識がありました。何かあったらすぐに噂が広がるみたい。だけど、実際に住んでみたら、そういう狭さにもいい面があることがわかりました。新しい店ができるという情報をすぐにキャッチしてもらえたり、いろんな人と繋がることができたのは、想定していなかった嬉しさですね。赤ちゃんを連れて歩いてると優しく声をかけてもらえたりもして、温かい人が多い街だなと感じています。





函館でラジオパーソナリティに
夢を叶えた先で見つけた街での役割

しもとそ ゆり
下唐湊 祐莉さん(28歳)
仕事:ラジオパーソナリティ
出身地:鹿児島県鹿児島市
函館在住歴:6年

「声の仕事」を夢見た
放送部の全国大会

うちは転勤族で、幼い頃からいろんな街に住んできました。生まれたのは鹿児島で、小学生の頃は福岡と大阪で過ごし、中学で鹿児島に戻り、大学時代は兵庫にいました。なので、地元と言われる答えが難しいんですけど、実家は鹿児島にあります。

ラジオの仕事に興味を持ったのは、中学校で放送部に入ったのがきっかけでした。放送部にも、本の朗読やニュース原稿を書いて読む技術を競うコンテストがあって、全国大会で決勝までいくことができたんです。それがもう嬉しくて、「将来は声の仕事に就けるかも」と思って、放送業界を目指すようになりました。大学時代に住んでいた兵庫は、阪神淡路大震災をきっかけにたくさんの方のコミュニティFMができた土地なんです。そこでコミュニティFMの研究をしている教授のゼミで勉強をしながら、FM宝塚というラジオ局で番組をやらせてもらっていました。リスナーの方から反応をいただけるのが嬉しくて、やっぱりこの仕事だなと気持ちが固まりました。

函館と出会ったのは就職活動のときです。ラジオパーソナリティになりたいと思って就活サイトを眺めていたら、FMいるかの募集を見つけたんです。私はもともと転勤族だったのもあって、住む場所にはこだわらず、ラジオパーソナリティの仕事ができるならどこへでも行くつもりでした。それで入社試験を受け

に行ったのが、初めての函館だったんです。最初に面接があって、お昼はみんなで函館山に登って景色を見ながら食べました。そこでもう「なんて素敵な街なんだろう」と思っていて、午後からの実技試験ではテーマをもらってフリートークをしたんですけど、ちょうどその前日に私の好きな野球の球団が函館で試合をしていて、そのテーマで話げきたんです。函館に導かれているような気持ちでした。

ブラックアウトで感じた
コミュニティFMの役割

入社して最初に担当したのは「いるか号」という車に乗って、市内各所から中継をする仕事でした。地域と密接に繋がっている局なの



ものばかりだから、一度来てくれた人はみんな「また来たい」と言ってくれますよ。それはもう自分のことのように嬉しいです。

函館に来て、ラジオパーソナリティになりたいという中学生の頃からの夢が叶いました。入社して間もない頃からいろんな経験をさせていただいて、会社には本当に感謝しています。ここは日本初のコミュニティFMで、みんなプライドを持って仕事をしています。積み重ねてきた歴史に恥じないように、ずっとこの街でラジオパーソナリティを続けていきたいですね。

で、まずは函館のことを知るのが第一歩だったんです。だから最初は仕事でもプライベートでも、とにかく外に出て、人と会って、街を見てまわりました。

1年目の下半期から番組を持たせていただいたんですけど、パーソナリティとして1番大きかったのは北海道胆振東部地震の経験で

て給油情報を共有して下さったり、学校が休みになったので伝えてくださいという連絡があったり、たくさんの方の情報が集まってきたのが印象的でした。

大学でもコミュニティFMについて学んできて、災害時におけるラジオの重要性は教授から口酸っぱく言われていたんです。実際にブラックアウトを経験して、自分たちの役割を身をもって実感しました。局長が「こういうときに聞いてもらえるように、日々の番組作りもしっかりやる」という話をしていて、それは今も強く意識しています。

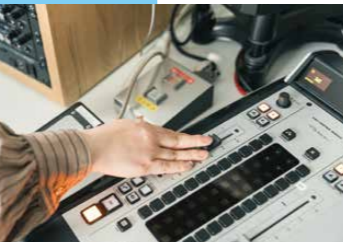
放送を通じて縮まる
家族との距離

函館に来て6年になりますが、イベントが多いのもこの街の魅力です。毎週末のように各地でイベントが開催されていて、鹿児島で放送を聞いている家族も「函館は本当にイベントが多くて楽しそうだね」と話しています。家族は離れて暮らしてはいるんですけど、ラジオを通して声が届くので、「近くにいるみたい」と言ってますね。あそこに行ったりか、こんなことがあったという話を番組でしているの、暮らしぶりもわかって安心して

いるようです。友達が函館に来てくれることもよくあります。雪を知らない人が多いので、私は冬に来るのをすすめていて、ゲレンデやワカサギ釣りに連れて行っていますね。ご飯も美味し

移り住んでわかった！
函館の「想定外」

雪が降らない地域から移住してきたので、冬靴や冬タイヤなど、雪用の道具を何も知りませんでした。そういうのを揃えるのにお金がかかるし、消耗品なので数年に一度は買い替えなきゃいけないのは想定外でした。冬道もただ雪が積もっているだけだと思っていたんですけど、ツルツルのときもあれば、デコボコのときもあるじゃないですか。それによって適した歩き方があるというのも、函館に来て初めて知って驚きました。



現在はレギュラー番組を持ちつつ、いるか号で中継に出ることも。プライベートでは、函館で世界大会が開催されるスポーツ「モルック」にハマっている。





自然の循環のなかに身を置いて
自分の暮らしを自分で作る

菅 渉宇さん(41歳)
仕事:フリーランスデザイナー
出身地:東京都小金井市
函館在任歴:2年

ゲーム会社から独立して
フリーのデザイナーに

今はデザインの仕事を中心にやっていますが、大学を卒業して最初に勤めたのはゲーム会社でした。そこでゲームプランニングやインターフェースデザインの仕事をしていたんです。だけど、他にもいろんな仕事をしてみたいくて、29歳のときに会社をやめました。

そこからはフリーランスでグラフィックデザイナーをしています。最初は仕事が多かったので学生のときにバイトしてたデザイン事務所の手伝いをしたり、企業に就職した大学時代の同級生から仕事をもらったりしていました。開発に何年もかかるのが当たり前だったゲーム業界の仕事に対し、デザインの仕事は数ヶ月ごとにアウトプットが続いていくし、いろんな方と仕事できるのが楽しいですね。

移住の決め手となった
生産者の方々とのお会い

学生の頃からずっと東京を離れたくない気持ちがあった。というのも、東京の大学は地方から来ている人が多くて、みんな自分の土地の文化を持っているんですよ。そういうものに対する憧れがありました。自分は東京のことしか知らなかったのだから、移住という選択肢はいつも頭の片隅にあって、違う土地へ行くたびに「ここならどんな暮らしができるかなかで生まれることが多いんですね。函館でも同じで、考え方や想いで共感する人との出会いから仕事が生まれていきました。今はお店のロゴ制作や、イベントの広報・運営などにも関わっています。

「移住先としてはいろんな場所を検討していたのですが、東京で知り合った友人が働く北海道余市町のレストランに行く機会があったので、ついで行ってみることにしたんですね。その友人が函館に移住する予定だったので、ついで行ってみることにしたんですね。その友人が函館に移住する予定だったので、ついで行ってみることにしたんですね。」

「移住先としてはいろんな場所を検討していたのですが、東京で知り合った友人が働く北海道余市町のレストランに行く機会があったので、ついで行ってみることにしたんですね。その友人が函館に移住する予定だったので、ついで行ってみることにしたんですね。」



みたいな。

「函館で出会った生産者の方々は、それぞれが地に足をつけて自分の仕事をしているのに、同じように自然と暮らしが循環していく方向を目指しているように見えました。そういう環境が自分たちが思い描いていた理想と近くて、「住むならここかもしれない」と思っただけです。その5ヶ月後には夫婦で函館

に引っ越してきました。

海と山と街の近くで
あるものを楽しむ暮らし

函館に来て最初の頃は、リモートで東京のデザインの仕事が続けていました。自分の経験上、仕事は営業で得るより、人との関係性の



取材は菅さんがロゴの制作を手がけた飲食店で行われた。デザイン業務の他にも林業やキノコについて学ぶ会に参加するなど、函館で活動の場を広げている。



「函館って、二足の草鞋で仕事をしている方も多いじゃないですか。東京の視点からすると、それはすごく新鮮で。東京は専門性が重視されるから、ひとつの仕事で精一杯になりがちだけど、いろんな働き方ができるのも函館のよさですね。僕もずっとデザイン1本でやっていきたいとは思っていないので、林業の勉強もしています。山の木から薪を切り出して、自分でエネルギーを生産できるのはすごく魅力的ですね。物価の上昇に合わせて収入も増やさないといけない生活からは離れて、自分で使うものは自分で作れるような生活にシフトしていけたらなと思っています。」

「そういうことを楽しめる環境が函館にはありますよね。妻が菓子屋をしていて廃油が出るので、それで石鹸を作っているんですよ。そこに森から採取したトドマツやスギの葉で香りをつけるみたいなことも遊びながらやっていきたいな。飲食店さんでも、高くても作りたいたものに合わせて食材を仕入れるより、その時期に身近にある食材を積極的に使って価値を生み出しているお店に共感します。人間の欲求を最優先にすると、いろんなところに歪みが生まれるし、それがいきすぎているのが都会なんだと思います。それでも経済が回っているから、環境負荷が見えにくいんで

移り住んでわかった！
函館の「想定外」

日本有数の港町だけに、良質な海産物を扱う鮮魚店が多いと思います。みんな轟然としているお店があるのではないのでしょうか。自分も週に何度も通う近所の鮮魚店があります。そこで特に驚いたのが生のニシン。関東の人間にとっては煮付けにするイメージの魚ですが、鮮度がよければ刺身でも食べられて、とにかく美味しいというのは、いい意味での想定外でした。マイナス面の想定外としては、東京と比べて光熱費が高いことですね。





**豊かな自然に囲まれて
家族との時間を大切にする暮らし**

おさわら だいご
小笠原 大悟さん(45歳)
仕事:児童館勤務/酪農ヘルパー
出身地:北海道札幌市
函館在住歴:7年

**日本語教師として
憧れだった海外生活へ**

札幌で生まれ育って、地元で会社員をしていたんですけど、25歳のときに仕事を辞めました。海外への憧れがあって、日本語教師になるために通信制の大学に入り直したんです。

そこで4年間勉強して、最初はベトナムの日本語学校に行きました。生徒は子どもから大人まで様々で、給料は安かったけど楽しかったですね。そのあとはインドネシアに行って、日本で介護職に就く人たちに語学を教える仕事をしていた。そこで出会った生徒とは今も繋がっていて、函館に遊びに来てくれたこともあります。

海外生活は楽しかったのですが、親が体調を崩したこともあって日本に戻ってきました。その頃です、農業と出会ったのは。せ々な町の米農家さんのところで体験をさせてもらった暮らしがとても素敵で、いつか自分もという気持ちになっていきました。

**児童館と酪農
地方でのダブルワーク**

函館に来たのは、その米農家

酪農は37歳から始めたという小笠原さん。道南には酪農のイメージがなく、人手不足となっているが、興味がある人向けに体験酪農をしている農場もある。



さんから「知人が空いている家に住む人を探している」と言われたのがきっかけでした。そこに住みながら酪農ヘルパーを始めたんです。

「函館の「想定外」

移り住んでわかった！
札幌と比べると雪が少ないと思っていたのですが、そんなこともなかったですね。前の家に住んでいたときは、農道が埋まって車が出せなくなったこともあり。そうかと思えば積雪がほとんどない冬もあって、雪のムラが大きいと感じます。今の家は大きな道路に面していて、しっかり除雪も入るので気持ち的には楽になりました。

は専業主婦の方が多かったのですが、自然と家で集まるようになって編み物を教えるようになりました。そういうことをしているうちに、知り合いの方から百貨店やイベントの出店に誘ってもらうようになったんです。

**ものづくりの仲間と
イベントを作りたい**

函館には8年いたんですけど、また夫の転勤で離れることになりました。そこから帯広、和歌山、川越と各地を転々としていたんですけど、私はずっと「いつかは函館に戻りたい」と思っていたんです。函

**大好きだった編み物を
趣味から仕事へ**

編み物は14歳の頃からやっています。高校時代はバスケット部で、メンバーの背番号を入れたハンドウォーマーを作ったりもしていました。社会人になってからもずっと趣味としてやっていたんですけど、将来的に何かの役に立てばと思って編み物を教えられる資格を取ったんです。

函館に来たのは夫の転勤がきっかけでした。それまでは働きながら余暇で編み物をしていたのですが、仕事を辞めて移住してきたのが、時間があって。そのときの社宅



たかはし すみよ
高橋 寿美代さん(55歳)
仕事:ニットスタジオ運営、ニット作家
出身地:大阪府堺市
函館在住歴:1年

**いつかは戻りたかった函館へ
自分で決めた2度目の移住**



「教科書通りではなく、オリジナルのものを作ってほしい」というのが高橋さんのモットー。教室でも、技術だけでなく楽しく作ることの大切さを伝えている。

移り住んでわかった！
函館の「想定外」
結婚して20年ほどいるんな土地で暮らしてきたんですけど、そろそろ根を下ろしたくて函館に戻ってきました。今は西部地区にニットの制作や教室ができるアトリエを構えています。函館にはさまざまなジャンルでものづくりをしている人たちがいます。そういう仲間と一緒に地元の人はもちろん、外からも人が集まるようなイベントを作るのが次の目標です。

移り住んでわかった！
想像を超えていたのは寒さですね。こんなに寒いのに、お風呂は追い焚きではなく、足し湯が基本だというのは驚きました。雪道の轍にタイヤが取られるので、冬の運転も苦労しました。玄関にある風除室や二重窓など、北海道ならではの建築設備があることや、定期的な灯油を給油してもらえるシステムがあるのはありがたかったです。

函館の好きなところ

函館に移住した方々は、どんなところに街の魅力を感じているのでしょうか。日々の暮らしで感じている「函館の好きなところ」について、6名の先輩移住者の方々にお話を伺いました!

食



伝統と革新の共存

函館はイカ刺しや塩ラーメンなどの名物に加え、最近とれているブリやマイワシを活用した料理が次々と生まれているのが面白いですね。伝統を大切にしながらも、新しいものを受け入れる土壌があるというか。バイトしている飲食店にも世界中から美味しいものを求める人が来ていて、食の街だなと感じます。

PROFILE



名前: 北村梨紗
仕事: 学生
年齢: 20歳
出身地: 北海道鹿追町
函館在住歴: 3年

自然



家からすぐの身近な登山

アメリカに住んでいた頃に登山にハマって、函館に来たら家から歩いて行ける距離に函館山があったので散歩感覚で登るようになりました。コースがたくさんあるし、季節や時間によって景色が変わるので飽きないですね。最近は鳥や植物に興味があって。そうやって好きなものが増えていくのは、とても幸せです。

PROFILE



名前: 松原かおる
仕事: デザイナー
年齢: 42歳
出身地: ブラジルサンパウロ州
函館在住歴: 1年

歴史



歴史と暮らしが地続きに

勤めていた書道用品店が函館に出店したのが、移住のきっかけでした。石川啄木やペリーなど、函館には歴史上の人物に関する場所が多く、史実が現実だと感じられる街だと思います。古い建物も残っているので、不動産の仕事を始めからは「こう活用したら面白そう」という視点で街を見るようになりました。

PROFILE



名前: 八木野創太
仕事: 不動産会社スタッフ
年齢: 29歳
出身地: 新潟県新潟市
函館在住歴: 5年

娯楽



遊び場ならではの距離感

音楽が好きで、よくライブイベントに行くんですよ。そういうところに行くたびに誰かが間に入って人を紹介してくれるのが、函館のいいところですね。自分でお店をやっている人たちも集まったりしているから繋がりが増えて、娯楽の幅も広がっていきます。居酒屋では、こういう関係は生まれやすいですね。

PROFILE



名前: 後藤公平
仕事: 飲食店オーナー
年齢: 39歳
出身地: 北海道森町
函館在住歴: 半年

カルチャー



異文化の混ざり合い

開港都市という背景もあって、街並みや食べ物など、いろんなところで文化の融合を感じられるのが面白いですね。北前船の足跡を辿ったら、地元・北陸との繋がりも見えてきました。一度外に出た人が地元で新しいカルチャーを持ち帰ったりもして、異文化を柔軟に受け入れるお手本のような街だと思います。

PROFILE



名前: しみずやまとも
仕事: 宿泊業
年齢: 42歳
出身地: 石川県金沢市
函館在住歴: 2年

ビジネス



実践的に仕事を学べる

仕事ではとにかく打席に立たせてもらう機会が多いので、実践的な学びがたくさんありますね。それと「自分はこんなことを大切にしている」という個々の想いが見えやすい距離感だから、仕事を通して人と繋がりがやすいなども感じます。今後は同世代で異業種の人たちと意見交換をする朝活も始める予定です。

PROFILE



名前: 高木桂佑
仕事: まちづくり会社
年齢: 26歳
出身地: 北海道札幌市
函館在住歴: 3年半



函館コミュニティプラザ「Gスクエア」ってどんな場所?

利用者の声

友達に会ったり、イベントをやっていたり、行けば何かがある場所だと思います。
(高校2年生)

最初からいい意味で初めましての距離感ではなく、馴染みやすかったです。ここできた友達もいます。
(高専1年生)

何でも相談できる場所ですね。アートの楽しさを知ってもらったり、人と繋がるイベントを作りたいという相談をしたら、スタッフの方が一緒に形にしてくれました。
(高校3年生)



学校の繁華街・五稜郭にある複合商業施設「シエスタハコダテ」。その4階には、誰もが気軽に立ち寄れるコミュニティプラザ「Gスクエア」があります。ここはWi-Fiや電源が利用できるフリースペースのほか、有料で借りられる会議室や多目的ホール、キッチンなども併設されており、用途に合わせていろいろな使い方ができる施設になっています。充実した設備が揃っているだけでなく、多彩なイベントが開催されているのもGスクエアの特徴。モノづくり体験やアートの展覧会、トークイベントにワークショップなど、いつも楽しいイベントが行われて

いて賑やかな雰囲気に包まれています。老若男女を問わず、たくさんの方が訪れるGスクエアですが、特に多いのが学生たちの利用。放課後になると学校も学年も異なる学生たちが集まって来て、黙々と試験勉強に励んだり、友達とお菓子を食べてたり、スタッフと仲良く話しているのが日常の光景です。単に場所を利用するだけでなく、ここで出会った学生たちが自らイベントを企画することもあり、若者がチャレンジできる場所としても新しい価値を創造しています。コミュニティプラザという名前の通り、さまざまな人たちの交流地点となり中心市街地の活気を生み出している場所です。

年間を通してたくさんのイベントを実施



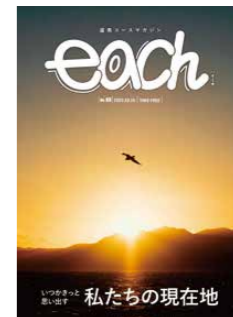
Gスクール

家でも学校でもないナメの学び場。函館にゆかりのある方を講師に招き、学生たちに多様な生き方があることを伝えるイベントで、他校の生徒同士が繋がる機会にもなっている。



中高生の寄り道どころみちどこ

「中高生の寄り道どころ」として開放されている場で、学生がイベントを企画したり、勉強の息抜きにおしゃべりをしたり、自由な時間のなかで生まれる楽しさを大切にしている。






道南ユースマガジン each [イーチ]





学生たちがローカルマガジンを作るプロジェクト。現役ライターやデザイナーが、企画の立て方から取材の心得、誌面デザインのコツなどを伝え、全4回の講座で雑誌を作る。

函館データ集

HAKODATE DATA

学校の数や他地域への移動時間、平均気温など、函館市の暮らしに関わるデータをまとめました。移住を検討される際の参考にいただければと思います。

人口  約 24 万人 <small>※2024年2月データ参照</small>	持ち家世帯の割合  57% <small>※2023年データ参照</small>	1世帯あたりの自動車保有台数  約 1 台 <small>※2023年データ参照</small>	文化財 150 <small>※2023年6月データ参照</small>	文化・社会教育施設 33 <small>※2023年6月データ参照</small>	スポーツ施設 40 <small>※2022年6月データ参照</small>
--	--	--	---	--	---


病院・医療機関  358 施設 <small>※2024年2月データ参照</small>	社会福祉施設等  796 施設 <small>※2023年7月データ参照</small>	高校卒業までの医療費  0 円 <small>※2023年12月データ参照</small>	他地域へのアクセス  飛行機 →東京 約 1時間20分 →大阪 約 1時間40分 →名古屋 約 1時間30分 →札幌 約 40分 →奥尻 約 30分 →台北 約 3時間10分
--	--	---	--

待機児童 0 人	幼稚園 <small>(幼稚園型認定こども園を含む)</small> 11 施設	認定こども園 <small>(幼稚園型認定こども園を除く)</small> 49 施設	小学校 40 校
中学校 23 校	義務教育学校 1 校	高等学校 14 校	特別支援学校 5 校
専修学校 11 校	高等専門学校 <small>(専攻科を含む)</small> 1 校	短期大学 2 校	大学 <small>(大学院を含む)</small> 4 校

※待機児童:2024年1月 ※学校数:2023年5月データ参照

車がなくても生活できる!? 市民を支える函館市電

北海道の暮らしといえば車が必須と思われる方も多いかもしれませんが、函館では湯の川から西部地区までを繋ぐ市電(路面電車)が走っており、通勤・通学や買い物にも広く利用されています。市民の暮らしを支える市電を是非ご利用ください。



JR →東京 約 4時間30分 <small>(新幹線等)</small> →新青森 約 1時間30分 <small>(新幹線等)</small> →札幌 約 3時間30分 <small>(特急)</small>	フェリー →青森 約 3時間40分 →大間 約 1時間30分	自動車 →札幌 約 4時間20分 <small>(高速道路利用)</small>
--	---	--

※2024年3月データ参照



函館市内 エリアマップ

HAKODATE AREA MAP

エリアごとに異なる表情を持つ函館。

市内の主要箇所は市電で繋がっているほか、郊外へは鉄道や高規格道路が利用できます。駅や空港、フェリー乗り場も中心地から近く、外からのアクセスがいいのも特徴です。

1 西部地区  日本初の貿易港として開港した函館。函館山の麓に位置する西部地区には、諸外国の文化を取り入れた建物が並び、異国情緒あふれる街並みが広がっています。	2 駅前・大門  函館朝市や大門横丁があり、地元の新鮮な海産物が楽しめるエリア。はこだてキッズプラザや、はこだてみらい館など、子連れで遊べる施設も充実しています。	3 五稜郭  デパートや飲食店が立ち並ぶ繁華街。中央図書館や北海道立函館美術館などの文化施設、千代台公園陸上競技場や市民プールなどのスポーツ施設もあります。
4 美原・昭和・桔梗  郊外型のショッピングモールや大型店が多くあります。多様な交流の場を提供する亀田交流プラザのほか、医療・教育機関も充実しており、暮らしやすいエリア。	5 湯の川  国内外から観光客が訪れる人気の温泉地。日帰り入浴ができる施設も多く、市民会館や函館アリーナではスポーツ・コンサートのイベントが楽しめます。	6 東部地域  2004年に函館市と合併したエリア。昆布や鱈の産地として知られているほか、国宝の中空土偶が発掘され、世界遺産に登録された縄文遺跡群もあります。



移住お役立ち情報

函館市
公式LINE



函館移住定住ナビ



子育て環境や施設の紹介、移住者のインタビューなど、函館市への移住定住に役立つ情報が網羅されています。市への相談窓口や、仕事案内のサイトへのリンクもまとめられているので、移住を検討する際には、まずこちらをご覧ください。移住セミナー開催のご案内をはじめ、最新情報は随時更新されていくので、定期的にチェックしていただければと思います。



函館市 オンライン申請可能な手続き 一覧ページ

オンラインで申請可能な行政手続きをまとめたページ。住民票の交付や児童手当の申請、水道使用のお申込みなどを行うことができます。



函館市内の移住相談窓口 函館市移住サポートセンター

函館市地域交流まちづくりセンター内にある、対面で移住相談ができる窓口。暮らしのお役立ち情報の発信や、地域の方々との交流イベントなど、移住後のサポートも行っています。

住所 函館市末広町4番19号
(函館市地域交流まちづくりセンター内)
開館時間 9:00~21:00
休館日 年末年始12/31~1/3 臨時休業の場合あり
電話 0138-22-9700
E-mail info@hakomachi.com



首都圏の移住相談窓口 どさんこ交流テラス

首都圏にしながら、函館での仕事の探し方や子育て環境などの相談ができる施設。対面、オンライン、電話の3つの方法で相談可能です。

住所 東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館8F
営業時間 10:00~18:00
定休日 月曜日、祝日及び
夏季・冬季休業
TEL. 090-1541-0011
E-mail. hokkaido1@furusatokaiki.net



移住支援金について

函館市への移住支援金支給額や対象者の要件、申請までの具体的な流れがまとめられています。

函館市企画部移住・人口減担当
TEL. 0138-21-3688



函館しごとネット

函館市内の企業案内、求人、就職関連イベントなどの情報を発信する仕事探しのポータルサイト。

函館市経済部雇用労政課
TEL. 0138-21-3309



函館市の住まいに関する支援制度

住宅の新築や改修の際に活用できる支援制度の一覧。「市外からの移住者が空家の購入にあわせて改修を行う場合」や「住宅敷地付きの空家を取得した後、空家を除却して新築住宅を建築する場合」など、パターンごとの補助金が確認できます。



ワーケーションin函館

函館で休暇を楽しみながら働くワーケーションの案内。テレワークができる施設の紹介や、地元の企業・大学への視察ガイド、目的別のモデルプラン、サテライトオフィスの開設を検討する市外事業者向け補助金などの情報がまとめられています。



Editor's note

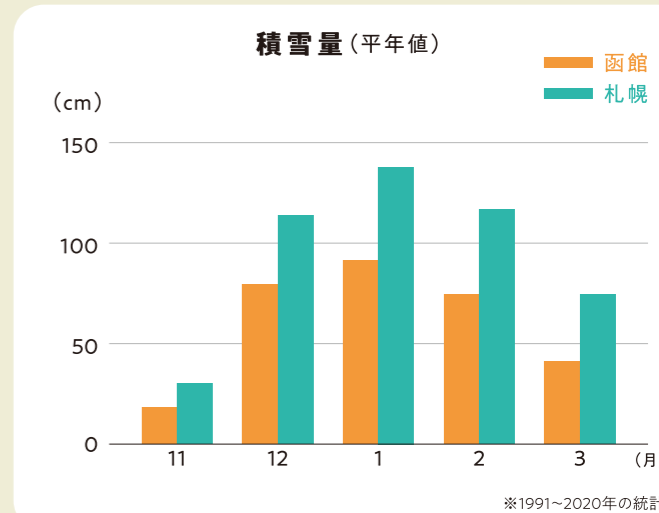
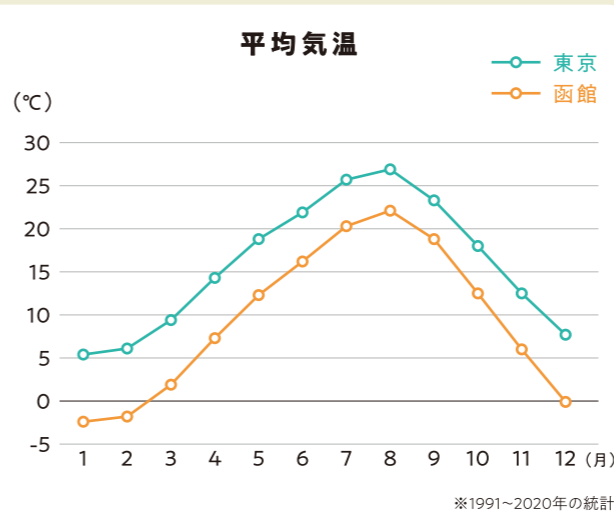
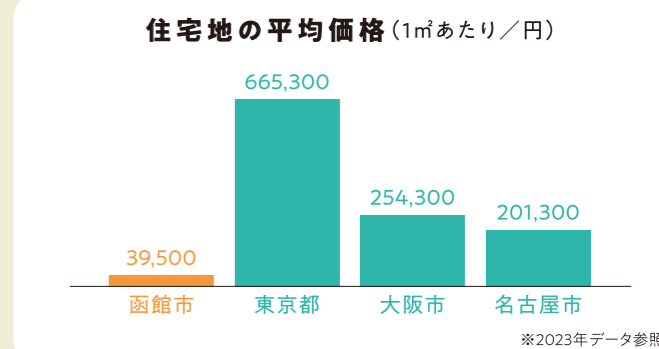
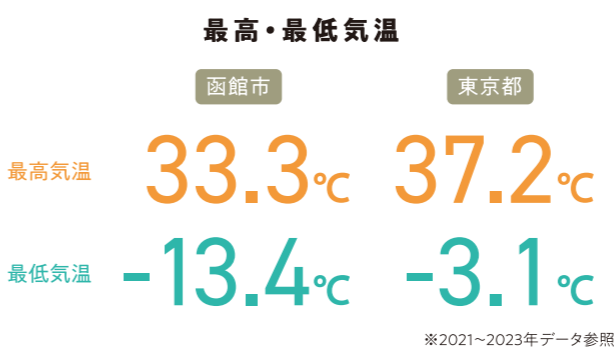
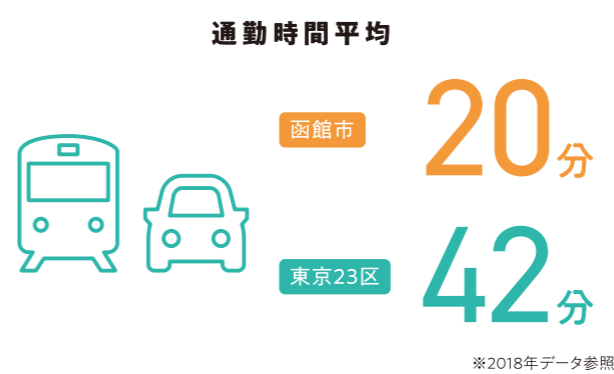
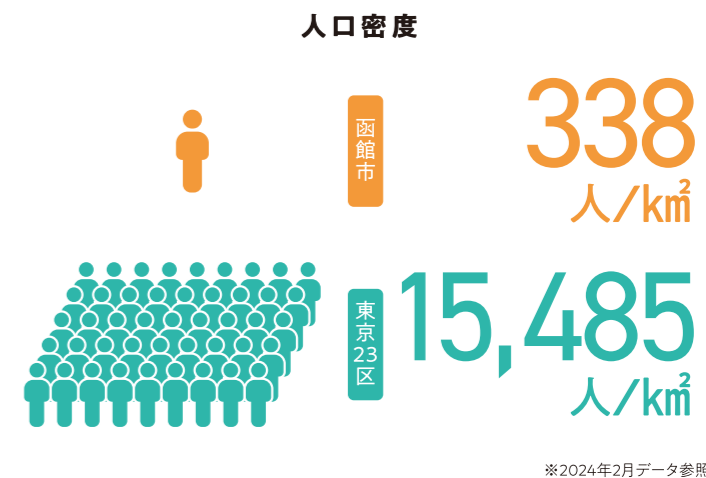
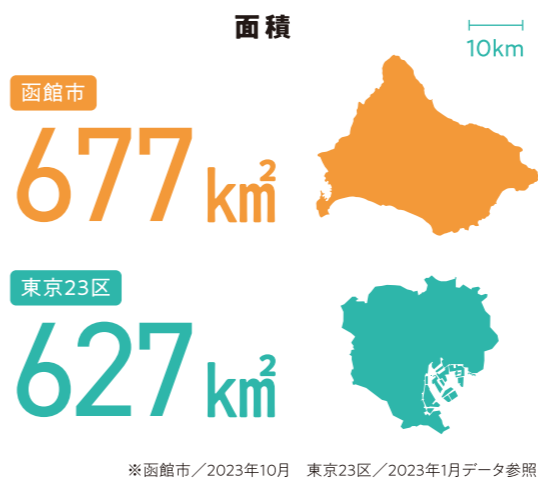
阿部 光平 (ライター・編集者 / 2021年に東京からUターン)

コロナをきっかけに家族5人で函館に戻ってきました。最初は仕事が続けられるか不安もありましたが、函館に来てからは文章の執筆のみならず、ラジオやテレビ、企業のブランディングなど、仕事の幅が広がりました。妻は自分の美容室を開業し、子どもたちは自然に囲まれて元気に育ち、函館で暮らす幸せを日々噛み締めています。



藤井 拓 (グラフィックデザイナー / 2021年に東京からUターン)

函館出身の妻と結婚したのがきっかけでこの街が気に入って移住してきました。東京と比べたら足りない部分もありますが、小さい子どもがいる今の僕ら家族にとって、街に住みながら海も山も近い今の環境はとて豊かだなあと感じています。この冊子が移住を考えるきっかけになってくれたらうれしいです。函館、楽しいですよ~!(笑)



データ集出典
函館市行政ポータルサイト、統計でみる市区町村のすがた2023、一般財団法人自動車検査登録情報協会、統計情報・わが国の自動車保有動向、東京都政情報、統計情報リサーチ、気象庁、国土交通省地価・不動産鑑定、「平成30年住宅・土地統計調査結果」(総務省統計局)